第７８回車座集会意見交換内容（中原区）

１　開催日時　令和８年３月１日（日）　午前１０時００分から午後０時００分まで
２　場　　所　中原区保育・子育て総合支援センター
３　参加者等　参加者１５名　　合計１５名

＜開会＞
司会：それでは定刻となりましたので、ただいまから第７８回車座集会を開催いたします。
　私は、本日の司会を務めます中原区役所企画課の齋藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。
　本日の車座集会は、「地域を守る！防災訓練をアップデート～地域における未就学児世帯の防災力向上に向けて～」と題しまして、昨年度の車座集会の結果を踏まえて実施いたしました、区の総合防災訓練を振り返るとともに、未就学児世帯の防災力向上に向けた地域での取組について、市長と参加者の皆様に意見交換を行っていただきます。
　中原区では、後ほど詳しくご説明いたしますが、今年度の防災力の向上に向けた取組の中で行いましたアンケートの結果、未就学児世帯の防災力がそのほかの世帯と比べて低いということが分かったところでございます。そのため、特に、市が推奨しております「在宅避難」の認知度を高め、ご自宅における備蓄状況や家具の固定状況についてもそのほかの世帯との格差をまずはなくすこと、この意識面と行動面の双方の防災力を高めていきたいと考えております。本日は、ご参加の皆様からご意見等をいただき、今後の取組をより有益なものとしていきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。
　開会に先立ち、会場のご案内をさせていただきます。こちら、中原区保育・子育て総合支援センターは、保育園と地域子育て支援センターの２つの機能を備えた施設でございまして、子育てに関する交流拠点として、地域の方にも気軽にご利用いただいております。所属する保育士・看護師・栄養士などが、地域の子育て家庭の様々な相談に対応するとともに、区内の保育園等の運営や人材育成についても助言や支援等を行っています。先ほど申し上げましたとおり、今回の車座集会は未就学児世帯の防災力向上というテーマで意見交換をしていただきますので、その趣旨を踏まえ、こちらのセンターを会場とさせていただきました。
　また、ご参加の皆様につきましては、昨年度の車座集会のほか、今年度の区の総合防災訓練等に参加いただいた未就学児世帯の保護者の方々、また地域の団体や企業の方々にお集まりをいただいたところです。
　それでは、開会に当たりまして、初めに行政からの出席者をご紹介いたします。
　福田紀彦川崎市長でございます。

市長：おはようございます。よろしくお願いいたします。

司会：沖本里恵中原区長でございます。

区長：よろしくお願いいたします。

司会：開会に当たりまして、福田市長からご挨拶を申し上げます。
　市長、お願いいたします。

＜市長挨拶＞
市長：改めまして、皆さん、おはようございます。今日は、日曜日の朝から貴重な時間をいただいて、お集まりいただきましてありがとうございます。今、司会のほうから説明があったんですけれども、ちょうど１

年前です、昨年の３月に車座集会をやりました。そのときに、防災のことについてみんなで議論をしました。やっぱり中原は、新しい住民の方も非常に多くて、若い世代が多い。でも、防災訓練をやっても、何か防災訓練に来る人たちは、いつも同じような方たちが多いよねと。やっぱり防災訓練はハードルが高いよねという話がすごく議論になりました。高いといっても、じゃあどこにターゲットを当てようかといったときに、やっぱり未就学児世代の皆さんにターゲットを当てたほうがいいんじゃないかなと。そこが一番ハードルが高いというところで、少しフォーカスを絞ってやってみようというところで、これまで１１月にイベントをやったりということを取り組んできました。継続的にこれは取り組んでいくことが重要だというふうに思っているので、今年もこの防災の取組について、さらに深く踏み込んでいくという形でやらせていただきたいと思います。

今日は、女性比率が非常に高くてうれしい限りというのは、なかなか役所の会議をやると、ほとんど男性というのがすごく多いですけれども、でも防災のことは、実は女性の視点とか、本当にいろんな人たちの視点というのが一番大事なんですけれども、特に未就学児世帯の話をするのに女性の視点、お母さんの視点とか主婦の視点だとか、いろんな観点がすごく大事だと思っているので、ぜひ今日は活発な意見を交わしながら、さらに前に進めていくというふうにつなげていければいいなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

＜参加者紹介＞

司会：福田市長、ありがとうございました。

続きまして、本日のご参加の皆様から自己紹介をお願いいたします。皆様のご所属や座席表につきましては、お手元の資料にございますので、ご覧ください。

自己紹介は、お座りのままで、私がお名前をお呼びしましたら、膝の上にスケッチブックを立てていただき、お名前やご所属等と併せて、「我が家の防災事情、「できている防災対策」と「これから行いたい防災対策」」についても教えてください。

短くて大変恐縮でございますが、お１人当たり３０秒程度でお願いできればと思います。それでは名簿順でお呼びいたします。

初めに、楠本様、お願いいたします。

楠本さん：楠本と申します。よろしくお願いいたします。

所属は、ただのここに住んでいる一般人であるというだけで、０歳１１か月の娘を育てている新米パパです。よろしくお願いします。

できている防災対策としては、防災という観点じゃないんですけど、純粋に赤ちゃんが危ないので、いろんな家具を固定させていただいています。何かあったときのために食材を備蓄したりとか、ハザードマップを見たりといったことはやっています。

やりたいなと思っているのは、緊急時の連絡網というと大げさなんですけど、仲のいいママ友、パパ友の皆さんといざというとき連絡を取り合うような体制ができたらなというふうに思っております。よろしくお願いします。

司会：楠本様、ありがとうございました。

続きまして、ご夫婦でご参加の中村優永様、中村亮太様、お願いいたします。

中村（優）さん：中村優永と亮太です。

所属は、楠本さんと一緒で、近所に住んでおります。

今、娘が１歳８か月で、ちょっと今日は、抱っこちゃんなので一緒に参加させていただくんですけど、我が家の防災でできていることとしては、水とかトイレとか、ペーパー類という、いわゆる日用品のストックをちょっと多めにしておくこととか、寝室に靴を置いておいたり、背の高い家具は、基本は置かないようにしています。あとは、ママ友に教えてもらって、普段持ち歩いている娘のためのマザーズバッグに娘の一通りのおむつとかおしり拭きとか、取りあえず着替え一式とかレトルトのご飯などを常に一応入れるように、あとは、割りばしとかスプーンとかというのをコンビニとかスーパーで頂いたプラスチックの使い捨てのものを入れるようにとかしています。

これから行いたい防災対策は、子供のことばかり考えていて、大人のことは意外とおざなりになっていたので、大人の防災リュックの準備とか見直しをしたいなというのと、意外と日用品とかばかりに目が行っていて、ヘルメットとか普通にフィジカルを守るものがないかもと思って、ちょっとそういうのを見直したいなというふうに思っています。よろしくお願いします。

司会：中村様、ありがとうございました。

続きまして、堀様、お願いいたします。

堀さん：堀と申します。よろしくお願いします。

私も中原区内で５歳と２歳の子育てをして、フルタイムで働いています。

防災対策なんですが、お恥ずかしながら、そのときに思いついたものをやっているという程度でして、今ですと、水のストック、あとスマートフォンの充電バッテリー、日用品、ちょっとインスタント食品を多めに買っておくとか、本当にそういう簡単なことしかできていません。

これからしたいこととしては、ちゃんと家族で、起きたときにまずどこに集まろうとか、携帯がつながらなかったときにどうしようという話し合いを今までしたことがないので、それは一度したいなと思っています。ほかも、ちょっと細々したところなんですが、今日は勉強させていただきに来ました。よろしくお願いします。

司会：堀様、ありがとうございました。

続きまして、大村様、お願いいたします。

大村さん：大村加織と申します。よろしくお願いいたします。

私は、小学２年生と年長さんの子供、２児の母親です。

我が家の防災事情なんですけれども、１つは、できている防災対策としては、防災リュックです。２つ用意をして、私と主人の分を持っていくように準備をしています。もう１つできているなと思うのが家具の固定ですね。本棚とか、特に子供部屋とかの固定はしっかりとしています。

一方で、これから行いたい防災対策も同じものを書いたんですけれども、防災リュックのほうは見直しをほとんどしていないので、もう今は使わないようなおむつが入っていたりとか、あとは賞味期限切れの食品が恐らく入っているんじゃないかなというふうに思っています。家具の固定も、キッチンだとかリビングのものはできていないというのがあるので、しっかりしなきゃなというふうに思っています。ふだんあまり防災意識が高いほうじゃないかなというふうに思っているので、今日は皆さんのお話を聞いて、いろいろ学びたいなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

司会：大村様、ありがとうございました。

続きまして、福本様、お願いいたします。

福本さん：区内在住の福本さくらと申します。よろしくお願いいたします。
　防災について、できていることなんですけれども、ローリングストックで（水だけ）と書いてありますが、お水は結構日常的に使うので、これはローリングができていると思っているんですが、一方でインスタントラーメンとか、そういったものがちょっとローリングできていないというのがあるので、それはこれからやっていきたいこととも表裏一体となっています。
　あと、私は、今、５歳の年中さんの息子の母なんですけれども、この息子が医療的ケア児なので、息子の医療物品のストックであったりとか、あとは猫を１匹飼っているので、猫のご飯とか、そういったものはストックができているのではないかなと思っています。
　一方で、これから行ってみたいことは、さっき中村様もおっしゃっていましたけれども、大人のほうの物品のストックがなかなかできていないので、それをやっていきたいなというのと、あと有事の際の、どこにどう集まるかという話し合いを家族としっかりしていくというのができていないので、そちらを今日は学ばせていただいて、勉強したいなと思っています。本日はよろしくお願いします。

司会：福本様、ありがとうございました。
　続きまして、関野様、お願いいたします。

関野さん：皆さん、こんにちは。関野愛美と申します。
　私は、５歳と３歳の男の子のママです。子供は中原保育園に通わせていただいております。
　我が家のできている防災対策は、缶詰などの備蓄ですね。普段からよく食べているからというのもあるんですけど、結構いろんなものがあります。
　思い当たるのもそれぐらいかなと思うぐらい本当に何も、恥ずかしながらやっていないもので、これからは防災リュックの見直しですね。多分６年ぐらい前に使って、記憶の中ではもはや出産前だったかもと思うぐらい前なので、ちょっと開けてみたいと思います。あとは、家具の固定ですね。あまり我が家は高い棚とかはないんですけど、これぐらいでも子供にとっては危なかったりしますので、ちょっとそこら辺をいろいろ皆さんのお話を聞いて、やっていきたいなと思います。よろしくお願いします。

司会：関野様、ありがとうございました。
　続きまして、平山様、お願いいたします。

平山さん：区内に在住の平山と申します。よろしくお願いします。
　子供は年長と年少の１つ下の学年の３歳の男の子２人の母をしています。ふだんは保育園にお世話になっております。
　我が家の防災事情ということで、できている防災対策として、防災グッズの購入はしていますと。最近、やはりポータブル電源等が結構宣伝にも出てくるようになったので、それを購入して、なるべく充電をしておくこと。あとは、水と食料、携帯トイレの購入は一応しています。あとは、寝室に家具を置かないということで、子供がまだ小さいというのもあるんですが、寝ているときこそ無防備な状態になってしまうので、なるべく家具を置かない。ただ、上の子が小学生になって大きくなっていくと、だんだん難しくなるのかなと思ってはいます。
　これから行いたい防災対策として、一応、配付いただいたママ・パパの防災手帳を基にした備蓄の備えの追加、あと期限のチェック。つまり、皆さんもおっしゃっているとおり、見直しが全然できていないなというのがあるので、定期的に、１年に１回でもやらなくてはいけないなと思っています。

また、小型の家具の固定、大型の家具の固定は、引っ越してきたときとか買ったときにできるんですが、買い足したカラーボックスとか、子供が使うような家具、トミカが入っていたりとか、そういうのがどうしても固定がおざなりに、場所が決まったら固定しようと思っていると、結局やらなかったりするので、そういう見直しをしていきたいなと思っています。よろしくお願いします。

司会：平山様、ありがとうございました。
続きまして、大谷様、お願いいたします。

大谷さん：中原区保育・子育て総合支援センター、ここの施設におります大谷と申します。よろしくお願いします。
私は、これは自宅です。職場ではなく、自宅になります。私がしている防災対策は、落下防止、それから備蓄品をやっているかなと思ったんですが、それで、これから行いたいという対策なんですが、やはり皆様と同じで、備蓄品と書いたものの、一体いつ買ったかなと思う。箱に入ったまま置いてありまして、いつ買ったのか、ちょっと今も思い出せないぐらいなので、早速、今日帰ったら確認をして、また備えたいと思います。今日はよろしくお願いいたします。

司会：大谷様、ありがとうございました。
続きまして、青木様、お願いいたします。

青木さん：さくらの木保育園の青木と申します。よろしくお願いいたします。
武蔵中原と新城の間の辺りにある保育園になります。
私も自宅のことを書きましたが、お水を箱買いして、お茶を箱買いして、もう自宅の思い切って一番目立つ廊下のところに日常用として置いておいて、何かあったときにはいつでもというぐらいしか、食材とかは用意していますけれども、一番気をつけているのはそこかなというところで、やっていないところ、これから行いたい防災対策は、皆さんと同じでした。本当に避難リュック、一応つくってあるんですけど、見直しがあまりできていないなというふうに思っています。
保育園のほうは、もう７日分のお水ですとか、避難食ですとか、おトイレですとか、おむつとか、そういうものは常に見直ししたりしているんですけど、なかなか考えてみたら自宅があまりできていないなと思って、また今日はいろいろ学ばせていただきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

司会：青木様、ありがとうございました。
続きまして、安西様、お願いいたします。

安西さん：地域子育て支援センター（にしかせ）で働いております安西と申します。まきまきキッチンという子ども食堂もやっております。
そのせいというか、そのおかげで、食べ物もトイレも家にはいっぱいあります。なので、災害時にはいろいろ動かなきゃなというのを考えています。
これから行いたい防災対策というか、やりたいことというのは、支援センターやサークルなどで一応、１年に１回ぐらい伝えてはいるんですけれども、東日本大震災のとき、そのときあなたたちは何をしていたと問いかけながら、私がそのとき、そのときはちょうど子供が中学生と幼稚園児だったので、そういうときにどんな行動をしたかというのを伝えていくということをやっているので、それをどんどんと広めていきたいなと考えています。よろしくお願いします。

司会：安西様、ありがとうございました。
　続きまして、杉﨑様、お願いいたします。

杉﨑さん：自主防災組織から参りました杉﨑と申します。
　具体的には、新丸子駅近くの上丸子小学校を中心とした避難所開設運営メンバーでしたり、山王町二丁目の町会の防災部を担当しております。よろしくお願いいたします。あと、私も１４歳の子供と、あとは猫が１匹います。よろしくお願いします。
　できている防災対策としましては、皆さんからありましたとおり、日用品のローリングストックでしたり、あとは水嚢とか、あと非常用のトイレというものがあります。水嚢は、地域的にちょっと水害に弱いので、水嚢を自分でも用意しております。それに加えまして、猫のバッグ、猫と一緒に避難できるようなバッグでしたり、あとは火災保険、こちらのほうも対策をしております。
　あとは、これから行いたいこととしましては、こういった備蓄のものはまあまあ用意できているかなと思ってはいるんですけれども、家庭内の連絡網が、こういったところがちょっと準備できていないというふうに思っておりまして、これを今後はこういった準備をしてまいりたいなと思っています。
　今日は、防災組織として参加しておりますので、ぜひ皆様のお声を聞かせていただきたいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：杉﨑様、ありがとうございました。
　続きまして、森様、よろしくお願いいたします。

森さん：私も区内在住の森直子と申します。
　子供は、もう２０歳、１８と子育てをしているお母さんの防災士と覚えてください。普段は、今だけではなくて将来も健康でいたいよねという方たちと、おいしくて手間のかからないレシピのお料理会を開催しています。それと、武蔵小杉エリアに住む私が必要だなと思った備えのあれこれをお伝えするワークショップを開催しています。よろしくお願いします。
　できている防災対策は、自分事となっている、防災に対してアンテナが少しだけ立っているというところが、自分の現在地が分からないので、誰かにとっては、できていないと言われるかもしれないんですけど、そういう中でいったら、この辺りは、一応自分事になっているということで書きました。
　これから行いたい防災対策としては、感染症なども規模によってはやっぱり災害になるので、その辺りのことも皆さんと共有できたらいいなと思っています。
　以上です。ありがとうございます。

司会：森様、ありがとうございました。
　続きまして、大西様、お願いいたします。

大西さん：ありがとうございます。
　私は、６歳と９歳の娘がおります。６歳は年長さんです。今、仕事としては武蔵小杉の北口のタワープレイスの中に入っている「かわさきＦＭ」の代表をさせていただいております。それから、武蔵小杉の再開発がいろいろ進んでおりますので、その再開発に関わる企業さんたちと一緒に地域の文化や歴史をつくっていこうということで、武蔵小杉エリアプラットフォームという会が２０２１年に発足しまして、そこの会長を今やらせていただいております。割と地域の方との意見交換とか、開発が盛んに行われる武蔵小杉のこれか

らのことをどういうふうに地域の方と企業と共につくっていけるかということを考えているような、そういうお仕事をさせていただいております。
　私の防災対策、やっていること、自宅のほうなんですけど、実は、自宅が水が使えない時期がつい最近ありまして、これは本当に災害が起きたときに何もできないなというのをすごく思いまして、そのときに、たまたまいろんな防災訓練に参加して、災害時の携帯トイレとかを買ってみたりとか、幾つかもらってみて、いろんな業者さんのを試してみたりとかというのを個人でやっていたので、それを使おうと思って、それはすごく助かりました。ただ、子供がそのトイレを使ったことがなかったので、そのときにトイレができなくて、近くのトイレに走って行きながら途中で漏れちゃうとか、子供にもちゃんと体験させなきゃ駄目なんだなとか、そんなことも思いました。
　あと食器とかは、実は意外と子供が嫌がったりとかするので、紙のコップとかお皿とか、そういうものもあったり、水が使えないと洗えないんだなというのを本当に実感すると、どうやって生活したらいいんだというのを戸惑ったというのがあったので、それは気をつけています。
　やっぱりこれからやらなきゃなと思ったのは、家族で話合いが全然できていなかったなというのをすごく思っていまして、子供に逃げるとか避難するときはどうするといったら、リュックにぱんぱんに本を詰めるといっていて、本かと思って、そういうところもちゃんと話し合わないと、逃げるぞとなったときに動けないなというのをすごく感じました。よろしくお願いします。

司会：大西様、ありがとうございました。
　続きまして、はつしも様、お願いいたします。

はつしもさん：私は、武蔵小杉ライフというローカル媒体を運営していまして、ふだんは、今日もいらっしゃっていますけど、外側でカメラを持って取材している立場でございます。
　うちの家族でやっていることは、当然、備蓄品とかはやっているんですけれども、やっぱりこれからやりたいのは、家族の行動方針というのをちょっと話し合いたい。ほかの方も挙げているんですが、武蔵小杉は非常に交通が便利で、普段、やっぱり通学とかで誰一人同じ路線を使っていないんですね。それぞれが別の電車を使っていて、違う行政区に普段は、１日のほとんどはいるということがありますから、そうすると、やっぱり災害が起きたときに、恐らくそれぞれの判断が求められる可能性が非常に高いということで、そこでやっぱり細かくルールを決めても、多分、実際にははまらないというシチュエーションが起きてしまって、どうしていいか分からなくなるので、ちょっと原則を決めておきたいなと思っていて、いろんなシチュエーションの中で、恐らくこの原則に従って行動しただろうなというのは家族の中で共通認識ができるような、ちょっとそういうルールよりも原則ということで、そんな話合いをしたほうがいいなというふうに最近思っています。ありがとうございます。

司会：はつしも様、ありがとうございました。
　皆様、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

＜本日の流れの説明＞
司会：続きまして、本日の流れをご説明させていただきます。
　この後、中原区の総合防災訓練に関するこれまでの議論の経過や、今年度の取組内容、今後の方向性について、中原区役所危機管理担当からご説明いたします。その後、意見交換①として、取組に関する皆様の感想や、防災について日頃皆様が感じている不安や課題感などを福田市長と意見交換をしていただきます。その後、中原区の課題認識などをお伝えした上で、意見交換②として、未就学児世帯の防災力の向上に向けた

地域の取組等についての意見交換を行っていただきます。意見交換の終了時刻としては１２時頃を予定しております。

それでは、危機管理担当からご説明申し上げます。

＜中原区役所からの説明①＞

課長：それでは、ただいまご紹介いただきましたとおり、中原区の総合防災訓練に関するこれまでの議論の経過ですとか、今年度の取組の内容について、説明させていただきます。中原区役所危機管理担当です。よろしくお願いいたします。すみません、座って説明をさせていただきます。

画面に記載のとおり、人口約２７万人の中原区では、大地震が発生した場合、建物の倒壊や火災の延焼が多く発生するとともに、武蔵小杉駅周辺では、最大約１万４，０００人もの帰宅困難者の発生というものが予想されております。

こうした課題認識の下、昨年度の車座集会におきまして、「あなたが考えるこれから必要な訓練とは」「区民が参加しやすい訓練とは」ということをテーマに意見交換を行ったところでございます。

その昨年度の車座集会では、市民の皆様から、特に「防災訓練への参加のハードルが高い」といった意見であったり、「必要な訓練というのは人それぞれ異なりますよね」といった意見が多く寄せられました。「参加のハードルが高いので、訓練にゲーム性や楽しさというものが大事ではないか」といったご意見であったり、また「同じ災害でも、人や状況によって対応は異なるので、きっかけを与えて各家庭や個人で考えてもらうことが大事ではないか」といった意見が挙がったところでございます。

そこで、中原区では、対応策を次のとおり整理しまして、新しい総合防災訓練について検討いたしました。具体的には、参加のハードルが高いという課題に対しましては、楽しい訓練を、必要な訓練は人によってそれぞれ異なるという課題に対しましては、ターゲットごと、ひとりひとりに合った訓練というものが必要であると整理した上で、令和７年度はメインターゲットを未就学児世帯に設定しつつ、主に３つの取組を行い、防災訓練をアップデートしたところでございます。

３つの取組のうち、まずは「ちびっこぼうさいがっこう」でございます。

皆さん、どのような訓練であったかを共有するために、ここで少し短めの動画をご覧いただければと思います。お願いします。

こちらは会場が小杉小学校で、１１月８日に行いました。親子で一緒に楽しみながら防災について学べる複数のプログラムを実施したところでございます。この防災プログラムに参加すると、ポイントがもらえまして、そのたまったポイントをおもちゃと交換できるといったような形式の、イベント形式の要素を含んだ防災訓練としたところでございます。実際に体育館で避難所を開設したときのご様子なんかもやっております。たまったポイントをおもちゃに交換して、お子さんも非常に大喜びといった。ポイントをもって最後にオークションを開催して、目玉商品と交換するといったことも行いました。

様子につきましては、以上でございます。

３つの取組のうち、次に「おうちでできる防災訓練」でございます。

お手元に皆様にお配りしましたリーフレットを区内の保育園、幼稚園などで未就学児世帯に配付をしまして、家具の固定や防災用品のストックなどについて学び、備えていただいたところでございます。

最後に、「なかはらまるまる防災博」で、小杉駅前でコアパークで開催をいたしました。

約６０の企業や団体のブースが出展しまして、周辺の商業施設でありますグランツリーやららテラスなども含めて、防災グッズをその場で購入できるといったようなイベントにしております。

また、「はたらくくるまの大集合」ということで、災害時に活躍する車両を展示しまして、親子で楽しめるようなイベントとしたところでございます。

すみません、令和７年度を通じて見えたことというところで、今年度の防災訓練はどうだったかというと、

メインターゲットを未就学児世帯に設定し、楽しそうなイベントとして告知することで、小杉小のイベントにつきましては、参加者の９割以上が４０代以下という結果でございました。また、イベントの参加者の約７割が、これまでに防災訓練の参加の経験がないといった方にご参加いただけたところは、成果であったというふうに考えております。これまで啓発が届かなかった世代にアプローチできたかなというふうに考えております。

また、アンケートの結果なんですけれども、「おうちでできる防災訓練」ですけれども、こちらの結果につきましては、ちょっと課題が見えたといったところでございまして、例えばなんですけれども、携帯トイレを備蓄している方というのが非常に少なかったといったところが見えております。また、「十分に備蓄しているよ」というふうな回答をした方でも、十分と回答しているにもかかわらず、その半分の方は、本来であれば７日間分以上備蓄が必要なところを３日間分程度しか備蓄ができていないといったところが分かったところでございます。

また、次に、川崎市では在宅避難というものを推奨しておりますけれども、その認知度につきましては、未就学児世帯以外、こちらにつきましては６４．３％の認知度があった一方、未就学児世帯では４５．４％となっておりました。また、在宅避難を認知していない世帯につきましては、十分な子供向けの備蓄ができていないということも確認できまして、冒頭、この会の趣旨を司会から申し上げましたとおり、未就学児世帯とその他の世帯とでは防災の意識にこれだけの乖離があるといったことが分かったところでございます。

次に、家具の固定状況につきましてですが、こちらにつきましても「全部または大部分を固定している」と答えた方の割合が、未就学児世帯はほかの世帯と比べて低いという結果が見られて、こちらにつきましても、未就学児世帯とその他の世帯とでは防災意識に乖離があるということが確認できました。

さらに、「おうちでできるぼうさい訓練」のアンケートの自由記入欄につきましては、「備えましょう」という言葉はよく聞くものの、具体的には何をどのくらい備えればいいか分からず後回しにしてしまったであったり、自分が思っていたよりも準備不足であったというご意見などがございました。

世代間で防災意識の乖離があるという、こういう状況を踏まえまして、中原区としましては、今年度も取組について、こうしたアンケート結果のほか、区民の意見や評価を直接確認した上で、次年度以降の区の総合防災訓練につなげていく必要があるものと認識しているところでございます。

以上でございます。

＜意見交換①＞

司会：ありがとうございました。危機管理担当から、これまでの経過や取組、また未就学児世帯の防災力の向上への具体的な目標などについてのご説明でした。

では、ここから意見交換に入ります。ここからは市長を交え、全員で意見交換をさせていただきたいと思います。

それでは、福田市長、よろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございました。皆さん、大体この流れというのはお分かりいただけましたでしょうか。大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

昨年からこういう取組をしてきたということで、ちびっこぼうさいがっこう、それからまるまる防災博という形で、ターゲットを若年層に絞って、未就学児世帯に絞ってという形でやってきましたけれども、どうでしょう、まずちびっこぼうさいがっこうに参加いただいた皆さんから、いらっしゃいましたら、参加いただいた方から、どうだったよと。あるいは、こういうところにもう少し課題があったかなとかというお話がありましたら、ちょっと共有していただけると。ちなみに、ちびっこぼうさいがっこうに参加された方って、どのぐらいいらっしゃいますか。はい、ありがとうございます。

それでは、大村さん、ごめんなさい、いきなり指名で恐縮ですけれども。

大村さん：大村です。
去年、ちびっこぼうさいがっこう、１１月にあったものに子供たちと一緒に参加させてもらいました。防災イベントだから行ったというよりは、ポイントがたまるとおもちゃが交換できるという、そちらがあったので参加したというのがあります。
実際に行って、いろんな防災のブースに行くとポイントがもらえて、それでおもちゃと交換ができるんですけれども、１つのブースで、家の中の家具を固定していますかというようなブースがあったんですね。そこのブースで子供たちがやっていたんですけれども、これはうちはやっていないよねと子供が言ったんですね。そのときに、私はすごく恥ずかしくて、ああ、うちはやっていないな、家具の固定という。周りのスタッフの人とかにどう思われているのかなとか、自分の子供のことをちゃんと守れていないなというのをすごく実感したというか、痛感をそのブースでしました。その後、すぐ帰って、ちゃんと固定しなきゃなというので、子供部屋の家具とかは固定をしたというのがあるので、おもちゃが目当てだったんですけど、本当に私としては参加してよかったなというふうに思っています。

市長：ありがとうございます。何かこれを企画した職員が泣いて喜ぶようなコメントだと思いますね。おもちゃから入り、家具の固定までつながったと。ありがとうございます。
堀さんもよろしいですか。

堀さん：私も５歳と２歳を連れて参加させていただきまして、あのときのおもちゃは、ちなみにリサイクルだったんですよね。新品がもらえるんじゃなくて、自宅からもう使わなくなったやつを持っていって、それも活用してもらえるということだったので、それもすごくアイデアとして、私はすばらしいなと思いました。
あと、上が５歳なので、どこまでゲームとはいえ理解できたかというのは、ちょっと疑問なんですけど、やっぱりこういうのを繰り返し参加していくことで、１回では分からなくても、記憶がどんどん上積みされて更新されて、日常の訓練の意識になっていくんだろうなと思ったのと、小学校の体育館に、幼児だと、まず入る機会があまりないので、避難所になる体育館に実際に行けた。これで、もし避難するときは、あのイベントのときに行ったところに行くよというところで、子供の意識も大分変わるんじゃないかなというふうに思いました。
とてもいいイベントだったので、私は、子供を２人とも保育園に通わせているので、保育園でチラシとか配布してもらったら、もっとイベントの認知度も上がるのかなと。やっぱり保育園のお知らせは必ず読むものなので、そんなふうに感じた次第です。

市長：すごくいいコメントをいただきまして、ありがとうございます。
それから、大谷さんは参加されたという、今、手を挙げられました。大谷さん、いいですか。

大谷さん：すみません、私も参加させていただいたんですが、本当に子供の興味を引く内容だったので、本当に子供たちが楽しんで参加していたなと思ったのと、やはりそこで、私は、参加したというか、担当して紙芝居を読んだんですが、クイズ形式の紙芝居だったんですが、いろんなことをよく子供たちが知っていたんですね。その知識にびっくりしたのと、それを私はこういう職場なので、そこで感じたことをいかに職場、区内全体の保育園で広げていくかというのを考えていかなきゃいけないなと思ったのがそのときに感じたことです。

市長：なるほど、ありがとうございます。
　楠本さんも参加いただいた。楠本さんからもよろしいですか。

楠本さん：ありがとうございます。私もまだ１歳にならない娘は多分、絶対理解できていなかったと思うんですけど、娘を抱っこひもに入れて参加させていただきました。
　堀さんのおっしゃられたとおりかなと思っていて、すごくコンセプトとしてはすばらしくて、おもちゃを入り口にして、いろんな遊び体験をしながら、これを繰り返しやっていくことで、子供たちにとってはこれが日常になっていく、こういったことが当たり前に日常になっていくということで、すごく貴重なイベントかなというふうに思いました。
　あえて皆さんがべた褒めなので苦言を呈させていただくと、おもちゃのリサイクルということだったんですけど、ここのセンターとか、安西さんが勤めている支援センターは、おもちゃは古いのはいっぱいあるんですけど、手入れがすごくしっかりされていて、何か昭和の香りがしても温かみがあるおもちゃが多いんですね。ここのおもちゃは、これは触ったらけがするだろうなとか、本当にちゃんと手入れ、メンテナンスはしたのかしらみたいなところはちょっとあって、めちゃくちゃ印象に残っているのが、近くにいた５歳の男の子が「どのおもちゃにする」と隣のママが言ったときに、「ごみばっかりだよ」と言っていたので、何かちょっと、子供は残酷でストレートだなというふうには正直思いました。
　なかなか、これはイベントの企画は大変だと思うし、やること自体がすばらしいことなのですけど、ディテールはまだまだこれから改善の余地があるのかなというのはちょっと思ったというところです。すみません、あえて。

市長：ありがとうございます。それも面白い視点ですね。いや、子供は正直ですよね。ありがとうございます。
　ほかに、参加はしなかったけど、今の映像だとか見ていただいたり、皆さんから逆に参加した方に質問という形はありますか。お願いします。関野さんですね。

関野さん：関野です。
　うちの子は、いまだにこれを本棚に入れていて、多分、同日開催のお知らせ、どこでいただいたのか記憶にはないんですけど、多分、カエルキャラバンさんとか、あと、こすぎコアパークのイベントとか、一緒の日にやっているよというお知らせで、消防車が載っているからというので、いまだに愛読しているんですけど、ちょっと１年間に１回だと、多分、この日は体調が悪かったのか、私が保育園関係のことで用事があったのか、行けなくて、おもちゃがもらえるということで子供を誘いたかったんですけど、行けなかった経緯がありますので、年に何回か、多分企画もとても大変だと思うんですけど、行けるチャンスが増えると参加者も増えるのではないかと思います。

市長：ありがとうございます。１１月という設定でしたけど、時期的にだとか、時間帯だとか、あるいは場所だとかというのは、もっとこうしたらというふうなアイデアはありますか。どうでしょう。１１月でいいとか、いや、もっと２回ぐらいやってほしいとか。それは大変なんですけど、２回はとか。あるいは、もう少し細分化するとかというのもあるかもしれませんよね。地域、エリアごとに少しやってみるとか。あるいは、先ほど大谷さんからもありましたけれども、もう少し保育園とかのほうの小さい単位に落としていくというふうなのもあるかもしれないですし、でも、何となく楽しさがないとというのは、１年前に、やっぱり楽しさがないと来ないよねというのは、子供さんを連れていくにも、やっぱり楽しさがないとハードルがすごく高いということなので、子供さんは理解できなくても、でも、子供さんを介して家具の固定につながっ

たとか、大人の意識が上がったというのは、１つ成果として、やはりアンケート調査なんかでも見ていると出ているのではないかなというふうに思います。
　それでは、もう１つのほうのイベントは、まるまる防災博、これは、私は両方行きましたけれども、参加された方、はつしもさんは参加された。

はつしもさん：取材で。

市長：取材していて、いかがでしたか。

はつしもさん：すみません、すごい人で、特にはたらくくるま大集合というと、物すごい行列だったんですけれども、アスタコの引退みたいな話もあって、やっぱり防災というのは、結構コンテンツとしてすごく魅力的というか、何かちょっと言葉が適切かどうか分からないですけれども、非常に人を集める力というのは結構あるなというのは感じたのと、結構、やっぱりこれだけの規模はなかなか、防災でこれぐらいの規模のイベントはなかなかなかったなというふうに思っていて、規模的に過去に見た中で一番大きかったかなという気がするんですよね。
　非常にやっぱり、それだけ大きく展開できるぐらい幅広いというか、防災と一口にいいますけれども、やっぱりいろんな切り口が、備蓄品とかもそうですし、はたらくくるまなんかもそうですし、いろんな企業さんの出展であるとか、いろいろ、あとは避難所のインフラのシステムの展示であったりとか、非常にいろんなものがあったので、私も初めて触れる切り口というのがありましたから、まだまだちょっと伝え切れていないことというか、皆さんがまだ認識されていないことというのが、防災と一口にいいますけれども、結構まだまだあるんじゃないかなと思いました。

市長：ありがとうございます。
　大西さんは、いろんな顔がありますよね。かわさきＦＭの代表という立場と、エリプラのお話もありましたし、いろんな立場があった中での今回、ご覧になっていかがでしたか。

大西さん：そうですね、このまるまる防災博は、ちょっと企業として協賛させていただいたりとか、当日は、同じように取材をさせていただいてということで関わらせていただいたんですけど、こういう防災訓練があるときに、基本的には子供を連れていっているんですね。子供がもう慣れちゃったのか、そんなに楽しめなかったということを言っていて、ちょっとびっくりしたんですけど、それは何だったんだろうなと思って、ブースに行って、何かいろいろ作って楽しかったりとか、クイズがあったりというのは楽しんでいたようなんですが、もしかしたら子供が楽しめるブースがあったかもしれないんですけど、ちょっと出会えなかったのかもしれないんですが、もっと走り回ったりとか、絵を描いたりとか、体を使って何かをやったり、ボールを投げたりなのか、何かそういうようなことをやりたいというようなことを保育園児が言っていて、ああ、そういうことが一緒に共存する防災イベントがあったら面白いななんていうのを当日ちょっと思いました。
　割とご来場いただいている方は、そういう意味では防災に意識がすごく高かったり、リテラシーの高い方が多かったりというのもお見受けしたので、そうではない方にもう一歩近づくというか、先ほどのおもちゃというキーワードで、取りあえず行ってみようという、何かキーワードが子供のここなら行こう、このはたらくくるまもそれが動くんだよとか。私は１回、溝の口の防災訓練で、はたらくくるまで、はしご車をマンションの上まで上げて水をジャーと出すというのを参加させていただいて、私がすごく大興奮して、あまり見たことがなかったので、はしごが上がるのは見たことがあるんですけど、上から水をマンションに向けてかけていたというのがすごく面白くてみたいな何か子供に刺さるキーワードがもっとあるといいなというの

をちょっと個人的には感じた次第です。

市長：なるほど。もう１回、ちょっとはつしもさんに戻りましょうか。今、大きくうなずいていたので、今の大西さんの発言を受けて、いかがですか。

はつしもさん：そうですね、確かになるほどなというところがありました。今回は未就学児というテーマですけれども、やっぱり子供たちが本当に楽しんでいたのかどうかというところと、もっと楽しくできるのかなというのはありまして、そこのところは、だから、この日は小杉小のほうのイベントのほうで割とカバーされていたんですが、私はちょっと時間が足りなくて、両方行きたかったんですけど、片方を取材していたら、もう時間がなくなっちゃって行けなかったので、ちょっとそれも別の日でもよかったかななんていうのは思いましたけど。

市長：なるほど。そういう意味では、大西さんの話は、小杉小学校でやっている要素もこっちの防災博のほうに含まれていれば、両方よかったかなという。

大西さん：まさに私も駅前のまるまる防災博だけの参加だったので、小杉小まで行けなかったので、行っていたら、もしかしたら子供の満足度は上がったかもしれませんが、当日、そこまで足を運ぶというのが我々はできなかった。皆さんは、その距離感というのはいかがなんでしょうか。

市長：逆にちびっこぼうさいがっこうに行った先ほどの方で、小杉のまるまる防災博も行かれた方はいらっしゃいますか。ちょっともう１回、堀さん、いかがですか。

堀さん：２つあるのを知っていたので、子供にこっちのイベントと、あと、はたらくくるまも見られると先に言ってしまって、実際は小学校のほうでほとんどの時間を過ごしてしまって、でも、約束したはたらくくるまも見たいというので、大急ぎで行ったような感じだったので、実際、未就学児だと、本当に動きも読めないので、１日かなり計画的に行かないと、２つを十分に楽しむことは難しかったかなと思いました。

市長：なるほど。
　楠本さん、いかがですか。

楠本さん：そうですね、子供にいろいろ消防車とか見せたいなと思って、まだ見ても分からないかもしれないですけど、見せたいなと思って、ちょっと歩きました。小杉小から駅前まで歩くことになるので、結構ストロングスタイルで、ついでに昼ご飯を買えたので、個人的にはよかったんですけど、確かに、もう歩くお子さんとかいらっしゃると難しいんじゃないかな。堀さんは、堀さんだからできたんであって、ただ、みんながみんなそういうことができるわけでは全くないと思います。

市長：なるほど。
　大村さんは、逆になかなか難しかったという感じですか。あることを知らなかった感じですか。

大村さん：あることは知っていたんですけれども、内容的にあまり魅力的じゃなさそうだなとちょっと思ってしまったのと、あと、やはり小杉小学校のちびっこぼうさいがっこうの中では、すごく動き回る体験とか、あと消防の水をかける体験とか、十分子供たちも楽しめていたので、その１つのイベントだけで、なので、

子供たちもおもちゃをもらって満足したので、もう帰ろうかということになりました。

市長：なるほど。ありがとうございます。いろいろ発見がありますね。
　杉﨑さんも参加されて、まるまる防災博のほうですね。

杉﨑さん：はい、まるまる防災博のほうに参加させていただきました。地域の防災訓練とか避難所の訓練とかをやっている身からすると、まず場所がいいですよね。人がたくさん来るところでやられたというところは、やっぱり認知するという点では非常にいい場所で開催されたのかなというふうに、まず思っているところです。
　あとは、いろいろブースがある中では、フェーズフリーの商品の紹介とかがあって、防災と構えなくても、なじみやすいような商品の紹介があったというところも、ちょっと買えなかったんですけど、ちょっと買いたい気持ちにもやっぱりなるのかなというところがありました。
　あとは、最後に、来年度みたいなところを視野に入れたところでちょっと思いついたところとしましては、また川崎市のほうでも下水道のほうに力を入れていくというのが来年度からの話というふうに聞いていますので、そこいら辺のところで、スーパーマリオのマリオのもともとの職業が下水道の配管工だったりしますので、マリオとコラボレーションをするなのか、コスプレしながらイベントとかすると、また未就学児の子供たちにも興味を持ってもらえたり、楽しんでもらえるようなこともちょっとあるかなというふうにも思っています。
　あと、ごめんなさい、もう一点。下水道のところでも、何かリモートコントローラーで検査できるようなマシンとか、川崎市とかでもしあれば、そういったところも実際に触れると、小さい子も、こんなふうに動くんだよなみたいなものも知ってもらえるような気もしております。ちょっと個人的なアイデアですが。

市長：すばらしいアイデアをいただきました。確かに、それは大人も子供も楽しいかもしれません。実際に市でやっているような話というのをご紹介できるというのは、私たちにとっても非常にうれしいことでして、それが市民の、あるいはこの小杉地区に対してもどういう役割を果たしているのかということをお伝えできるというのは、いい機会だなと。ありがとうございます。すばらしいアイデアをいただきました。
　どうでしょう、今回の取組を通じて、もうちょっとこういうところの視点があったらいいかなとかいうのはありませんか。次の意見交換のときには、さらに次にどうしていくかということの発議がありますが、振り返りのことについてはいかがでしょう。
　じゃあ、１回、区長のコメントを挟んでおきます、いきなりですけれども。

区長：ありがとうございます。私たちはこの前の車座集会を受けて、全力で１１月のイベントに向けて頑張ったんですね。その結果が、興味を持って参加していただいて、行動までつながったという生の声を聞けたのがすごくうれしく思っています。どうしても区役所は、広報しても、その先がどうなっているのかが見えないところだったので、現場の声を聞けたのがとてもよく、これからの意見交換でも、そういうお声をいただけたらうれしいと思います。

市長：ありがとうございます。いや、本当に２つの会場でやるというのは、かなりマンパワー的には大変だったと思うんですけれども、でも、それぞれの特徴がうまく出ていたなと。だけど、これをがっちゃんこすることもあり得るというような、そんなようなご意見なのかという。あまり誘導しちゃいけないですけど、でも、そういう感じかなというふうに思わせていただきました。
　大分時間が押していたんですけど、ちょうど今、間に合ってきていますので、一旦、ちょうどいいタイミ

ングなので、次の事前説明が区役所のほうからありますので、そちらに移行したいと思います。

＜中原区役所からの説明②＞
司会：皆さん、様々なご意見をありがとうございました。
　それでは、次のテーマに移りたいと思いますが、その前に、関連して区の課題認識などについて、もう一度区役所から説明をさせていただければと思います。

課長：区役所危機管理担当です。よろしくお願いします。
　令和７年度の総合防災訓練の結果を踏まえた上で、今回メインターゲットとしました未就学児世帯の防災力の向上に関して、区の課題認識や目指す姿のイメージを共有できればというふうに思っております。
　未就学児世帯では、子育てなどで忙しくて、防災のことまでなかなか考える時間がないといった傾向にあるということでございまして、先ほど、事前説明①のほうでもお伝えしましたように、防災対策を取っている割合というのが相対的に低い傾向にあるということと、また、防災訓練への参加経験がない世帯が多いという傾向もありましたので、今後につきましても、継続的なアプローチが必要であるというふうに考えております。
　さらに、子供が未就学児のうちに保護者の防災意識が高まることによりまして、子育て期全体を通じて当該世帯の防災意識が高まるといったことにもつながるものというふうに考えております。
　こうした中、今年度の防災訓練でのアンケートの結果では、未就学児の保護者の方々から、地域のつながりに関する不安や期待の声を多くいただいたところでございます。少し読ませていただきますと、物を備えるということも大事ですけれども、近所の人や地域とのつながりをもっと持っていないとといったご意見であったり、地域の方との関わりを持ち、近所で助け合うことや声かけできる環境というものが大事なのではないかというような意見がございました。
　今年度は、中原区主体で防災訓練の機会を区民一人一人に提供するというところを意識して取組を行いましたけれども、未就学児世帯にアプローチする機会ですとか、未就学児世帯が防災について考えるきっかけというものを増やすためには、行政による防災訓練といった手法だけではなく、地域のつながりという視点を踏まえた上で、地域の多様な主体を想定した取組の形についても検討する必要があるものというふうに考えております。
　こうした課題認識も踏まえまして、改めて中原区として目指す姿をイメージ図で表しました。中原区としましては、今年度の取組のとおり、参加しやすく一人一人に合った防災訓練を区民に提供していくのですけれども、一方で、本日ご参加いただいている方々のように、地域で活動する様々な主体が自主的、継続的に防災に関する取組を行っているということも重要だと考えておりまして、そうした取組のために、中原区としましても、地域に対する各種啓発や働きかけ、きっかけづくりや土壌づくりといったことなどを行っていきたいというふうに考えております。
　さらに、中原区民としましては、そうした地域とつながったり、交わったりしながら、自ら防災について知り、考え、学び、備えていくと。区役所、地域、区民の３者で中原区民一人一人の防災力向上を目指したいというふうに考えております。
　そうした目指す姿、理想のイメージに向けて、まず、今年度はメインターゲットである未就学児世帯に関しまして、その他の世帯と防災意識の格差がなくなるよう、在宅避難の認知度向上をはじめ、どのような取組の形が考えられるのかについて検討したいと思っております。
　説明につきましては、以上です。

＜意見交換②＞

司会：ありがとうございました。
　それでは、次の意見交換としまして、ただいま説明いたしました中原区の目指す姿に向けた地域での取組について、広く皆様のご意見を頂戴し、市長とご議論いただければと思います。
　先ほどの説明の中で、地域の多様な主体を想定した取組の形とありましたけれども、地域のどういった方々に、どういった取組をしてもらえるといいかなとか、また、こんなときにこんなことをしてもらえるといいなとか、そういったご意見、アイデアも出し合っていただければと思いますが、いきなりお出しいただくのも難しいかと思いますので、現在地域の中で防災についてどんな取組や活動が行われているのか、どんな意識で取り組まれているのか、そういったことを活動されている方にお伺いした上で、市長との意見交換に入っていきたいと思います。
　それでは、初めに、森さん、よろしくお願いいたします。

森さん：森です。よろしくお願いします。
　私たちが住むエリアというのは、ほとんどの方が認識されていると思うんですが、在宅避難であったり、自助というのが基本になっています。私は、避難所に行って、誰かに何とかしてもらおうと思っていたんです。災害が自分事になったというのは、この避難所の環境のことを知ったことが１つのきっかけだったんですけど、とにかく娘をここに連れては行けないと思って、女性にとっては、やっぱり安心できない環境です。こういう環境だということを知ることが、私のような人を少なくしていくと考えています。
　この在宅避難ということがぐっと身近になってくると、自分の価値観からそんな遠く離れない備えをしていきたいなと考えるようになりました。選択肢、ローリングストックとか、よくネットで書いてあるもの以外にはほかにないのかなとか、うちはこんなものでほかで代替できるなというものとかも考えたりして、乾物とか、日もちのする野菜とか、昔からの知恵もローリングストックに取り入れられるんだということを考えています。
　このことがふだんの生活に影の薄いものだったら、非常時に使えるかどうかということも考えました。在宅避難をするといっても、２日、３日と日にちがたっていくと、温かくて、いつものご飯が食べたくなってきます。いつもと違うというだけで、大きなストレスになる方もいらっしゃいます。私の取組の１つに、慣れて、備えて、つながる防災というワークショップがあるのですが、パッククッキングという調理方法を体験していただきます。
　近所のお友達にまず話してみると、情報としては知っている方というのはたくさんいたんですけど、できますという人はあまりいませんでしたので、じゃあ、本当に私の周りのお友達とやってみようというのが私の活動の始まりです。電気依存の高いエリアなので、判断力がある方であれば、できるようになっていたほうがいいのかなと思っています。防災というと、ネガティブなテーマなんですけど、節水とか、あとは日常に役立つ体験に変えるワークショップで、楽しいねとか、みんなで食べるとおいしいねとか、防災とは相反するような時間になっているんですが、このことが非常時の心の支えになると私は思っています。
　災害に遭ったとき、どんな自分でありたいですか。ワークショップでこんな問いかけをしています。災害というと、非常食とか避難経路などを思い浮かべるんですが、それらの備えは、もう大前提として大事です。でも、ほかにはどのようなことが大切でしょうかという問いをしているんですけど、どうぞ皆さんで思い当たることがあったら、次のページで、発災前に起きる日常の備えと物以外のもので備えるものって何かありますか。
　本当に答えはそれぞれ皆さん違うんですけど、例えば体力とか、回復力とか筋力、足腰を丈夫にとか、ストレスに対するとか、考え方、こういったものは、真ん中の発災する縦の矢印のように、被災してからもりもり健康になっていく人はいないんです。だから、今本当に起きたら、今の状態がスタートなので、だからこそ、この真ん中の矢印の健康値というのを上げておくことも減災とか、そういった備えになると考えてい

ます。
　心と体が健康であるということは、助ける人にとっても、助けられる人にとっても、大人も子供も、あと高齢者にとっても、どの立場の人にとっても本当に大切な備えです。しかも、災害が起こらなくてもメリットになるものです。ですけど、今日頑張って筋トレしても、次の日に筋肉がつくわけではないです。回復力も免疫力も急には整わないです。ストレスにどう対応するかも、日常からの習慣です。人間は急には変われません。
　今回、テーマになっている未就学児世帯にとって、自分も通ってきた道なので分かるのですが、防災は大切と思っていても、意識を向ける優先順位が低いだけなんですね、おざなりになっているわけじゃなくて。なので、いつの間にか防災ということもお話ししているんですけど、特別ではない日常からの習慣が命を守る取組をこの地域で充実させていきたいと私は考えています。一見、防災とは関係のない人たちの力も必要になってくると思います。話していることは、すごく目新しいことではないんですけど、住民の皆様が心が動いて、備える行動のきっかけになればうれしいです。
　これは、ちょっとある地域のご高齢の方に、どのところが不安ですかということをアンケートを取って、１人２個ずつシールを貼ってくださいね。もちろん一番多いのが避難所の生活なんですけど、私がちょっと注目したのが、シールがない場所。不安なところは、多分、皆さんの意識が向いているので、備えも厚くなると思うんですけど、不安がない場所って、結構そこに何かするというアクションというのは向かないなと。これは聞き方にもちょっとよるんですけど、お年寄りはこうだったけど、未就学児のお母さんたちはちょっとまた違うのかなと考えた１つのデータになります。こんな感じで活動しています。ありがとうございます。

司会：森さん、ありがとうございます。
　続きまして、杉﨑さん、よろしくお願いいたします。

杉﨑さん：杉﨑です。よろしくお願いいたします。
　私は、左と右、緑と青、上丸子山王町二丁目防災部という組織と、あとは上丸子小学校避難所運営会議、この青い右側の組織２つに所属しております。
　まず、左側の緑の上丸子山王町二丁目という場所的なところからお伝えしますと、銚子丸でしたり、新丸子、上丸子小学校地域のところになっております。
　今日、ここでは、いろいろ書いてあるんですけど、これまでやってきていることとかをご紹介できればなと思います。
　まずは左のほうの写真を見ていただきますと、令和元年の１９号で浸水した地域になっております。そういったところがありますので、水害と地震、この両方のことをちょっと考えながら意識する必要がある地域になっております。
　そこで、やっぱり町内会での防災部として活動しますので、今後、共助、何かあったときに助け合うというようなことができるような体制づくりとかをしていく必要があります。ただ、その前に自分の身を守る必要がありますので、共助をするために自助をしっかり備えていくような啓発を町内でやるようにしております。
　そのほか、そのためにも町内の方の防災の意識などのアンケートを伺ったりしております。ちなみに今年、我々の町内会でいうと、在宅避難が主になっていくということの認知は４５％ぐらいでございました。というところもありまして、今後、在宅避難の啓発というのは積極的に町内会のほうでもやっていきたいなというふうに考えております。
　続いて、右手の青いほうに移りますけれども、こちらは、有事のときに我々の地域での避難所としては上丸子小学校になります。避難所が開設をするための訓練でしたり、運営をする、そういったような訓練を中

心に行っております。いろいろ写真がありますけれども、非常用のトイレの設置訓練でしたり、トランシーバーを使った、町内の被害状況をシミュレーションしてトランシーバーで伝達するような訓練などもしております。

こちらのほうは上丸子小学校と協力させていただいたり、そこの地域でのスポーツクラブの子供たちにもご案内させていただいて、なるべく小さい子供からこういった防災訓練に参加していただくように、ちょっと働きかけをさせていただいております。こちらも今後在宅避難が中心になってくるということを意識した訓練というものを考えていかないといけないなと思っております。恐らく避難所に物資の多くがまずは届くと思いますので、そこから各町内会に物資を分配していくとか、運搬していく、そういった訓練、こういったものが必要になってくるかなと思っておりまして、そういった訓練を今後計画・企画していきたいなと思っています。

最後に、一番下にありますオレンジ色のところとしましては、土台としまして、私の個人的な経験からも、その時々のライフに合わせてコミュニティに参加するというところの大事さを感じていまして、私も１９号で被災したんですけれども、まず助けてくださったのが幼稚園のパパ友でしたり、当時のＰＴＡの役員の友達とかでした。なので、そういったところでコミュニティに参加していくというのが大事なのかなというふうには個人的には思っておりまして、最後にちょっとお伝えさせていただきます。

以上です。

司会：杉﨑さん、ありがとうございました。

続きまして、大西さん、よろしくお願いいたします。

大西さん：すみません、私のほうからは、この日付、非常に近いんですけれども、３月２８日土曜日に武蔵小杉の駅前、先ほどまるまる防災博をやっていらっしゃったあのエリア、駅前から、それから市道の２１号線のエリアを使って、武蔵小杉防災フェスティバルというのを民間主導で初めて開催するということで立ち上げました。これは、実は去年のこの車座集会をきっかけに、これはやっぱり子供を連れていける何か防災のイベントを民間主導でやれないかなと思いまして、もちろん業者の方にも、中原区役所さんにもご協力は多大にいただきながらではありますが、周りの企業の方にお声がけをして、形を今つくっているというものになります。

ちょっとだけ中身をご紹介させていただきます。この２８日の防災フェスティバルは、やっぱり楽しいということを感じてもらうような体験をつくりたいと。防災は、やっぱり難しかったりとか、さっきも分かってはいるし、何かみんな考えてやっていることもあったりするんだけれども、プライオリティがあまり上がっていないみたいなところもあったりするんですが、実は、でも身近だったり、非常に今やっていることでいいんだよというようなこともあったりすると思うんですよね。そんなことを家族みんなで考えたり、体験できたり、そういうことをやりたいなと思っています。

例えば巨大防災すごろく、今、この写真はテーブルの上にあるものですが、これを道路に一面に広げて大きなさいころを振って、体中で飛んでどんどんとすごろくを踏んでいくようなものとか。それから、テープアート体験といって、この写真だと、これは面白いかなという感じに見えますが、実は東電さんが持っている小杉のコアパークの中にコンクリートの塀みたいなのがあるんですけど、そこにみんなで思い切りキットパスのクレヨンでわっと色を塗って絵を描いて、もうぐちゃぐちゃになってもいいから絵を描いて、テープを下地に実は貼っていて、最後にそれを取ると絵が浮き出るとか、そんなようなこととか、あと、道路にテープを貼っていて、道路をカラフルにしてみようとか、普段みんなが歩いていたり使っているところが子供たちのアートの何かの表現の場になったり、そんなことをするようなことも入れています。

あと、ちょっとかわさきＦＭなので、子どもアナウンサー体験といって、ラジオＤＪみたいな体験をして

いただくお仕事体験みたいなことも入れています。ほかにもたくさん、例えばソニーさんに協力をいただいて、ちょっとプログラミング的な、全然そんなにプログラミングを書くようなことではないんですけど、テーブルの上でちょっとしたソニーさんの製品、機械を動かすような感じで防災のイエス、ノーをやって、ちゃんと避難がうまくできるかなみたいなことを、コンテンツを持ってきていただいてやったりします。

あと、さっきお話が出ましたけれども、震災工作車、アスタコというのが細かい作業もできたり、大きな力を使って崩れた家屋をどけたりとか、移動させたりとか、そんなことをやる震災工作車のアスタコが引退をするということで、これは廃棄される車ということなので、最後にお披露目式みたいなことをやりたいなということで、アスタコの引退セレモニーのようなことができたらいいなということで、今、消防のほうとも協力をさせていただいて企画をしています。

あと、もう１つが臨時災害放送局。このかわさきＦＭというのは、日頃、皆さんと市民にためになる情報を発信しているんですけれども、災害が起きたときは、臨時災害放送局という局になります。これはちょっと市民の方もあまりなじみのないキーワードなんですが、何か災害が起きて、例えばアンテナが壊れてしまっても、かわさきＦＭのスタジオが水で浸ってしまって使えないとか、もしくは、能登のときもそうでしたが、地震で崩れて機材が全く使えないという放送局が出てきまして、そんなときにでも臨時災害放送局を立ち上げて、放送を皆さんに継続して届けるという義務というか、責任がありまして、これは行政から総務省と、そこで認定をされるという流れがあるんですが、この設置訓練を川崎で初めてやるということも、このフェスティバルの中で、実は総務省と一緒にやらせていただくということに今なっていますので、ちょっといろいろ情報がありますが、こんなこともやっております。

ということで、３月２８日は、実は防災フェスティバルと、それから行政のほうで主導されている「こすぎでそとあそび」、それから「こすぎるまちフェス」、川崎駅の北口から２１号線、そして駅前というところで、ちょっと広域にいろんなイベントをやります。先ほどもやっぱり、お子さんを連れていろんなところに動けないということがあったので、ちょっとこれをどういうふうにつなげていくかなというのは１つ課題にはなっていますが、例えばスタンプラリーでつないでみて、ここへ行って、あそこへ行って、スタンプが集まったら何かおもちゃをもらえるよなのか、そんなことも少し考えています。今日の皆さんとのお話が、非常にいいアイデアをいただいたなと思っています。ありがとうございます。

司会：大西さん、ありがとうございました。地域の方々からの発表は以上となります。

それでは、福田市長、よろしくお願いいたします。

市長：地域での取組の発表をありがとうございました。

未就学世帯ということもすごく大事なんですけれども、それ以外にも中原区民の皆さんの全体的な防災意識もそうですし、備えを高めていく。その中で、重点としては未就学児というのもあるんだけれどもということで、全体的に上げていくと。

杉﨑さんの話で、本当に令和元年台風の１９号のときに浸水で被災をされたと。あのときもそうだったんですけれども、同じ地区でありながら、被災されたところと被災されていないところというのは、くっきり道路一本で分かれてしまうというようなことがあって、被災された方のところには、当然物すごく意識が高くなる部分もあるんですけれども、ちょっと離れたところになると、もう何のことだかというふうな形にもなってしまうというのも、これもまた事実だというふうに思います。ですから、そういう意味では、どうやってお互いに意識を上げていくかという課題というふうなものがあるんですけれども、そこを本当に町会として、こうやって防災を若い世代が取り組んでいること自体に本当に勇気が湧くような思いがしますけれども、まさに令和元年台風をきっかけにして加わったという形ですか、杉﨑さんは。

杉﨑さん：そうですね。やっぱり震災、被災したことがきっかけになります。そのきっかけとしては、まずは被災したことがきっかけで町内の方々とのコミュニケーションが増えました。そこから私の場合ですと、地域の公園、下沼部公園というのがあるんですけれども、そちらのほうに毎月掃除がありまして、そこにまず参加する機会が増えまして、そこからお声がけいただいて、防災部だったり、防災に関する活動に参加するようになりました。やっぱり被災した私だったところもありまして、これは使命なのかなというふうな思いで今入り続けているというような感じです。

市長：ありがとうございます。先ほどから皆様のところで、地域のつながりというふうなのというのは、森さんの発表でもあった気がするんですけれども、本当に大西さんの今の発表もありましたよね。みんなで楽しくつながっていくことによって防災意識を上げていこうということだと思うんですけれども、ほかに、今日はこちらからのこちらは、まさに小さいお子様がいらっしゃる家庭という形で、こちらの方たちは地域で活動されている方々ということでありますので、少し安西さん、青木さんにもちょっとコメントをいただいても、こういうふうにつながれる可能性があるなとか、自分たちが今やっていることも、こんなことをやっていますけれども、少し可能性も含めてお話しいただけるとありがたいと思います。
　安西さんからよろしいですか。

安西さん：ありがとうございます。安西です。
　地域子育て支援センター（にしかせ）を運営しているんですけれども、場所柄、地域の人たちが歩いて来られるところにあるので、そこでみんなご近所さんがつながり合って、この間もちょっとしたエピソードとして、同じぐらいの年齢のお子さんをお持ちのお母さんたちが一緒に帰っていったんだけど、どこまでたっても一緒にいるななんて思っていたら、同じマンションだったと。やっぱり普通にしゃべっている間では、どこのマンションですかなんてなかなか聞けないけど、たまたま、じゃあ同じ時間に一緒に帰りましょうかとなったときに、そんなやって、同じところまで帰っちゃったのねなんて言いながら。そういう報告とかを聞くと、やっぱり地域で歩いて来られる範囲にあるこども文化センターのところの地子センなので、皆さんがそうやって地域でつながって、そんなに遠くから来る人は、ぼちぼちいるんですけれども、基本的に地域なので、そういう面ではすごくいいかなと思います。
　あと、子ども食堂のまきまきキッチンもやっているんですけれども、子ども食堂もいろいろな親子さんがいらっしゃって、私のところでは、５０人でテーブルを並べて食べるんですけれども、そこでやっぱり、たまたま隣り合わせになった親子さんたちがおしゃべりをして、それが積み重なっていけば、まちで会ったときに、この間会ったねとかと言い合えたりしたら、少しでもつながりが膨らんでいくのかなというふうに考えています。

市長：はい、ありがとうございます。
　それでは、青木さん、お願いします。

青木さん：青木です。
　今、保育園で何ができるのかなというふうに、お話を伺いながら思っていたんですけれども、リーフレットとか、チラシとか、確かに川崎市のほうから届いて配ったんですけれども、まず保育士たちの意識がまだそこまで、川崎市のこの熱い思いを今すごくひしひしと感じて、ああ、もっと一声添えてあれを配ればよかったなというふうに反省をし、３月２８日のチラシはぜひ配らせていただきたいし、何か一言添えて、おたよりなどにも入れたら、入れてからのアピールに私たちも参加ができたらなというふうに思うんですけれども、本当にまさしく保育園で、どうやって未就学も含めて、微力ながら何かできることがないかなというと

ころで、どんどん保育園も巻き込んでいっていただきたいなというふうに、あそこにも保育園の防災の情報があるといいよなんて書いてあって、確かに園だよりとか、クラスだよりとか、いっぱいおたよりを配布するんですけど、防災については、あまり載せていない現状がうちの園ではありますね。

市長：ありがとうございます。
　さっき堀さんでしたか、大村さんでしたか。園だよりみたいなものに載せてくれればよかったなという。堀さんですよね。あれは必ず見ると。

堀さん：そうですね、保育園からのおたよりは重要なものもあるので、必ず保護者は目を通すんじゃないかなと思っているのと、ちょっとお話を聞いていて思いついた、本当にアイデアなんですけど、保育園は、やっぱり子供たちが一番安心して行ける場所なので、保育園だけじゃなくて、幼稚園とか小学校とかもそうだと思うんですけど、そこで半日とかでも電気を使わない体験とか、災害があったときをシミュレーションにして、いつも手が汚れた、「ああ、水道が出ないんだ、今日は」とか、トイレ行きたい、「今日はトイレが使えないの」みたいな、そういうイベントとかを土日に親子でやったりすると、やっぱりお知らせだけだと、忙しい毎日で素通りしてしまうところがあるので、実体験に勝るものはないかなと。ちょっとすみません、思いついたものを言わせていただきました。

市長：いや、すごい思いつきですね。
　どうぞ、青木さん。

青木さん：保育園で懇談会が、年に２回ぐらい保護者の方がいらっしゃる会がどこの保育園でもあるんですね。保育園の様子をお伝えするんですけど、家族の方にいらしていただくので、そこで何か併せて防災のことをお伝えすることは、今できるかななんて思ったりしました。

市長：ありがとうございます。実は、区長とこういうお話をしているときに、どうやって子育て世帯の皆さんに私たちがリーチできるかという、メッセージを届けられるか。必要な情報を届けるって、物すごくやっぱり課題を抱えていて、今回、私たちのこうやって取り組んでいく成果指標というものをちゃんと、こう取り組んだら、こう変わりましたということをどこに設定するというふうな話をしたときに、区長。

区長：そうですね、司会からも最初のほうにありましたけれども、やはり今回、未就学児世帯が思いはあるんだけれども、なかなか行動にできない。ほかの方と比べて、防災に対する取組がちょっと低いのかなというところがあるので、そこをまずは意識を持って取り組んでもらいたいというところがあります。だから、数字で先ほど出しましたけれども、ほかの方の世帯が取り組んでいるところまで、まずは上げていこうというところが成果指標として持っております。その成果指標をどうやって把握していくのかというのは、区役所のほうでもアンケートを２年に１回やっているので、そういうところだったり。あとは、保育園のほうから今お話がありましたけれども、定期的に講座とかをしてもらった結果を、皆さん、保護者の方にアンケートを取らせてもらって、ちょっと気づきながら取り組んでもらう。そういうところで図っていきたいなと思っています。

市長：ありがとうございます。こうやって、例えば幼稚園の取組、保育園の取組というふうなのが確実にやっていけると、確実にその成果は現れると思うんですよね。気づきにつながり、行動変容につながっていくということをこれから少し２年かけてというふうな、４年かけてなのか、２年ごとのアンケート調査の中で、

しっかりと成果を出していくというところにこれから取り組んでいくということなので、すごくいいアイデアをいただきました。もうフリーにこういうことをやったらいいんじゃないのというようなお話、アイデアがありましたら。
　はい、杉﨑さん。

杉﨑さん：町内会として、じゃあ、未就学児の方々にどうやってアプローチできるのかという視点でちょっと考えて聞いていまして、そういう点でいうと、やっぱり先ほど、公園掃除というところで出た下沼部公園、こちらは、昨日もどうでしょうか、私が通ったときに数十人と子供たちが遊んでおりましたので、そういったところで先ほどの防災のフェスのイベントのチラシを配ったりだとか、そういったところは私どものほうでも何か協力できるところなのかなというふうに思った次第ですので、ちょっと共有させていただきました。

市長：ありがとうございます。やはり大西さん、今回、民間主導でという形で、企業の方たちの持っているノウハウと、結局、地域の人たちが協力していただく、広げていただくということがないと、なかなかつながってこないというところもありますから、こういう杉﨑さんのお申出みたいなのはとてもありがたいですよね。例えば、保育園でお知らせしますよとかというふうな話というのはね。

大西さん：そうですね、本当に企業は、地域の方や自主防とか町内会とどうやったらつながれるんだと悩んでいらっしゃるところが非常に多くて、かわさきＦＭは、どちらかというと市民の方にご出演をいただいたり、取材に行ったりということで、おつながりが割とあるほうではあるんですけれども、それでも我々もどういうふうに発信を、この情報はここのターゲットに届けたいというもの、これがラジオだけでは難しいと非常に感じているところもあります。なので、こういう場でおつながりをいただいたり、手を挙げていただいたり、お声がけいただくというのは非常にありがたいなというふうに思っておりました。

市長：はつしもさん、いかがですか。

はつしもさん：そうですね、やっぱり私も武蔵小杉ライフというのはローカルメディアで、様々な情報発信をしていく立場にありますから、やっぱりメディアもそうなんですけれども、地域の一人一人の方がそういった動きをいただけると、やっぱりメディアだけではできないところというのは確実にありますので、非常に有益な話です。ここから両方でやっていく話かなというふうには思います。

市長：ありがとうございます。
　大谷さんからもコメントをもらっていいですか。ご自身でやられていることとか、さらに、今の皆さん方のご意見を聞いて、どうやったらつながれるかなみたいな話というのは。

大谷さん：本当に保育園は、先ほど青木さんからもありましたけれども、保育園では保育園で、子供たちの防災教育という。教育というと、ちょっとあれなんですけれども、体験みたいなものをしているんですね。例えば、ブロックをちょっと敷いて、その上にシートを敷いて、その上を歩いてみて、がれきの上を歩くのはこんな感じだよとか、そういう体験をしているので、保育園で体験をしたりもしているので、そういうことを先ほどお話しいただいたように、ああ、子供たちだけじゃなくて、親も、保護者の方も一緒に経験できるといいのかなと思ったので、そういうところで、まずは保護者の方。それから、本当に地域の中にある保育園ですので、いろんな民生委員さんや主任児童委員さんや地域の方にも支えていただいているので、そういう方の交流の中で、そういう体験もできたらいいのかなと、ちょっと思ったりしました。

市長：そうですよね、ありがとうございます。やっぱり私も体験的に、未就学児の子供がいるときは、全て子供とセットで行動するじゃないですか。単体で親だけで動いていることというのはほぼなくて、何か週末とかだったら、確実に子供と一緒に行動するということなので、そういう意味では、子供さんたちと一緒に参加できるということがまず大前提にないと、基本的には無理という話ですよね。

中村さん、どうですか。

中村（優）さん：無理ですね。今、皆さんのお話を聞いていてちょっと思ったことがあって、うちは、ちょっとこの中ではマイノリティかなと思うんですけど、自宅保育なんです。３歳からの幼稚園のプレに入れようかなというふうに思っていて、そうなると、本当にコミュニティがないというか、所属のコミュニティが娘がないんですよ。皆さん結構、早かったら０歳から保育園へ預けられたりとかして、やっぱり何かしらそういう学校みたいなところに子供が属していると、そこから結構情報が得られることが多いと思うんですけど、自分から選択して自宅保育をしているのであれなんですけど、情報を取りにいかなきゃいけないんですよ。

やっぱりずっと家にいるわけにはもちろんいかないので、孤独というのもあるから、私はここの支援センターにいつもすごくお世話になっていて、本当に週５で来ていたりもするし、１日に午前中と午後と２回来たりとかもして、本当によくしてもらっているんですけれども、というのも、うちはここから自宅がすぐ近くなんですね。だから来られるんですけど、結構ここでお話しするママさんとかって、うちみたいに本当に歩いて１０分以内とかで来られる方がほとんどというわけじゃもちろんなくて、結構、それこそ中原の駅のほうからいらっしゃっている方とか、新丸子の丸子橋のほうから来ている方とかもいらっしゃって、もちろん近くにも別のこ文とか支援センターもあるけど、こっちに来たくて来ているんだよねという方もいらっしゃったり、それぞれなんですけど、そういう地域のつながりというのは、やっぱり自宅保育組は結構難しくて、うちは夫の実家がここなので、すごく昔からこの地域に住んでいるから、地域の方と結構つながりがあったりして、町内会の方とかも知り合いだったりして、町内会でお餅つきするよとか、この間、お正月とかは町内会館に獅子舞が来て子供を連れていったりとかしたけど、子供を連れていっていたのはうちだけで、本当に周りにおじいちゃんとおばあちゃんしかいなくて、そういうのとか、獅子舞のイベントとかは、普通は子供向けだと思うんですけど、本当におじいちゃん、おばあちゃんしかいなくて、ただのおじいちゃん、おばあちゃんの憩いの場みたいな感じに町内会館がなっていて、もちろんその意義があると思うけれども、やっぱり子供が多い地域でもあるから、若い世代にそういうのは受け継いでいかないといけないと思うし、何かそういう、本当に防災だけではなくて、地域でこういう楽しいこと、季節のイベントとか、それこそ盆踊りとかもそうだけど、やっていますというのも、私は結構、それぞれの町内会のポスターとかを見るのが好きで見るタイプなんですけど、やっぱりそういうものだけだと伝わりにくいというのがあるのかなと思って、まずはそういう地域のつながりというのを、さっき安西さんもおっしゃっていたけど、お母さん同士でどこに住んでいるんですかと、そこまで踏み込んでいいのかなみたいなものが正直あって、本当に様子を見ながら、皆さん、仲よくなっていると思うので、ここのおまつりに来ているということは、お家は近くみたいな、そういうきっかけが防災イベントとかというのじゃなくて、もっとあったらいいなというふうに思うのと。

あと、先ほどかわさきＦＭさんとかが企画されている、こういう大々的なイベントは、やっぱり土日が多いんですけど、平日も小さくてもいいので、何か平日、自宅保育組のママたちが子供を連れてちょっと支援センターに行ったら、いつもとは違うイベントをやっているとか、そういうのがあったらうれしいなというふうに個人的には思います。

市長：なるほど。すごくいい意見ですね。ありがとうございます。
　福本さんもうなずいていらっしゃいましたけど、福本さんからコメントをもらっていいですか。

福本さん：本当にまさに今、うなずきながら聞いていたんですけれども、マイノリティというワードが出たかと思うんですが、我が家も保育園には通っているものの、医療的ケア児という観点で少数派というところで、ちょっと防災とはもしかしたら離れるお話かもしれないんですが、それこそ医療的ケア児になったときに、川崎市の健康福祉局から、町内会の自主避難が難しい方向けに、お手伝いしますよという、登録しませんかというおたよりをいただいて、それについては登録をしているんですけれども、それも二、三年、三、四年前に登録したきりで、地域の民生委員から電話をいただいて、何かあったときに助けますというお電話以来、特に連絡を取っていないというのが、今回この防災の会に出るというのを決まったときに、振り返ってみたときに思い出したことだったんですね。そういう、うちが医療的ケア児であるというところを川崎市が分かってくださって、それをおたよりとして送ってくれたという事実はあるというのと、それはすごく心強いんですが、その後、どうやってつながっていくのかという不安は一応あるというのが１つ。
　あと、我が家は保育園に通えているけれども、医療的ケアの内容によっては、保育園とか、そういう地域の通う場所、登園先に通えない方もいると思うので、そういう通えない世帯が地域とのつながりが希薄になっていって、こういう何か有事災害があったときに、どうやって、じゃあ自分たちは避難したらいいんだろう、誰に頼ったらいいんだろうというのが、多分なかなか見つけられていない方もいらっしゃるのではないかなというのを、今ちょっと皆さんのお話を聞いて思ったことでした。
　イベントがあることはすごく大事だと思うんですけれども、そのイベントの対象者に車椅子が必要な方とか、医療的ケア児の方とか、高齢者の方とか、そういう全部の区民の方、市民の方が視野に入っているのかなというのは、もうちょっと広く考えていただくとよいのかなと思いますし、そういう意見がもし必要であれば、こういう世帯から意見を出すこともできるなと思った次第です。

市長：ありがとうございます。すごく大切な意見をいただいたと思います。
　ちなみに、川崎市の子育て応援アプリ「すくすく」が改定になりまして、改定になって「すくすく」というものになったんですけれども、なるべくそういったイベントだとかというふうなのが全部プッシュで来る、かつ申込みも「すくすく」のアプリでできるというふうな形なので、ご自身の子供さんたちの祭事だとか、興味の関心みたいなものを入れていただくと、そういうのがプッシュで出てくるようになってくるということなので、今、入れていたけどしばらく使っていないよという方が結構いらっしゃると思うので、ぜひアップデートしていただければ、大分便利になってきていると思います。
　だけど、ちょっと大丈夫かなと今思ったのは、例えば障害のところに、例えばチェックリストはあったかなとか。例えば、そこにフレンドリーな対応ができますよというふうなことまで出てきたかなというと、ちょっと僕も今、不安になったので、確認したいと思いますけど、これはつくったから終わりではなくて、もっとどんどん日々改善していこうと思っているアプリですので、ぜひご意見をいただければうれしいなと思います。
　それこそ週末だけじゃなくて、平日も、だから、本当に中村さんみたいに物すごく積極的に情報を取りにいく人じゃないと、なかなか取りにいけないというのから、なるべくプッシュで出ていくという環境をつくりたいなというので、今回の改定に至っているんですけれども、ですから、週末じゃないけど、平日だって、隣の区に行けばあるなとか、ちょっとあそこだったら、バスで隣の区だけどすぐ行けるなとかという、そういうのを見られると便利に使っていただけるのかなというふうに思います。
　関野さんと平山さんからも少しコメントをいただいてもよろしいですか。
　じゃあ、関野さんからいきましょうか。

関野さん：そうですね、我が家も本当に保育園に属していなければ、ほぼコミュニティがないようなもので、マンションに住んでいて、賃貸なのでかなり入替えも激しく、子育て世代は、多分何軒かいるんですけど、本当に擦れ違いざまに「こんにちは」「お疲れさまです」というぐらいで、あっちもそんな反応で、踏み込みづらいし、本当に有事があったときじゃないとつながりが持てないかなと思っている感じです。

ただ、起こってからでは遅いので、その前につながりというのを見つけなきゃいけないし、あとは、家族も本当にそばにはいないので、本当に核家族なんですね。なので、つながりづくりですね。なかなか町内会に入るきっかけみたいなものを知らなくて、掲示板を私は見るのが好きで、ちらっと見るんですけど、どうやって入ったらいいのかも分からないですし、でも、やっぱりつながりは本当に大事だなと、杉﨑さんの話を聞いて思いました。

市長：ありがとうございます。杉﨑さん、うれしいですよね。そういうふうに大事だなと思ってくれたこと自体がとてもうれしいですよね。

じゃあ、平山さんからもよろしいですか。

平山さん：そうですね、まず、この車座集会自体を今回、初めて声がかかった時点で知って、前回の中原区のをＹｏｕＴｕｂｅで見たんですけれども、これを知っていれば、１１月８日のイベントも参加したのに、川崎市民としてというのをすごく後悔しました。

３つの資料があって、１つの家具の固定とか、間違い探しチェックのは、印象として、これは大事だから残しておかなきゃと考えていたんですが、２つのイベントは、どうしてもぱっと見て、夕方、連絡ノートを持ち帰るので手いっぱいで、夕ご飯になって、お風呂になってという世界なので、通り過ぎちゃうんですね、ぱっと見、もう１回見直す機会が少ない。もらった時点で予定に書き込んでという余裕が夕方にはなくて、なので、そういえばもらったかも、あのカエルのとか、そんなので終わってしまっていました。

なので、ぜひ次回は予定に組み込んでやりたいなと思っていて、皆さんと同じように、私も保育園の送迎はしているんですけど、なるべく歩ける日は歩いたりしているので、やっぱりまちの掲示板を立ち止まる機会って、子育ての方、もちろん自転車で通り過ぎてしまう方もいると思うんですが、手をつないでゆっくり歩いているので、結構眺められるなと思うんですね。結構見るんですね。なので、やっぱりそこで防災関連のを知りたいし、行きたいと思う気持ちはあるので、そこになるべく貼ってもらいたいななんていうのは思いますね。ネットも大事なんですけど、やっぱり物理的なものも大事なのかなと思いました。

防災、地震とか津波があるんですが、結構、最近どきっとしたなと思うのが、外国とか神奈川県からは遠い地震による津波の注意報があったと思います。カムチャツカ半島の地震とか。その日はたまたま在宅勤務の日だったので、これはいかんと。やっぱり朝、地震があったよというのがあって、不安になりながら預けたんですけれども、やっぱりちょっと休暇を取って、お迎えにいこうといった日がありました。そうすると、保育園では、２階建ての保育園なんですが、一番大きい部屋に全園児が避難をしていました。保育園のお迎えに行くと、「ああ、協力ありがとうございます」と言ってくださった保育園の先生方とかもいて、普段保育園でやっている避難の方法とか、保護者はあまり知らないんだなということを改めて知りました。多分、すごく整備されているんだろうなという安心感はあるけれども、具体的にどんなことをしているかは、知らなかったなというのがそのときの気づきでありましたね。

子育て世代に突き刺さるのは何かなとちょっと考えたときに、子供とお風呂に入るので、お風呂に貼れる素材で作ってあるポスターみたいなもので防災のものがあるとうれしいかな。やっぱり家のリビングだと、テレビやタブレットにどうしてもかじりついてしまう。変な話、テレビのニュースさえ見にくい環境だったりもするので、何もないお風呂で何かできるグッズだと、子供と一緒に「こうだよね」と話しながら、毎日

できるかなというのはありますね。
　あと、やっぱり保育園様様なので、保育士さんとか栄養士さん、看護師さんの先生方から防災についての話があると、割と保護者は真面目に聞くのかなと思っておりまして、やっぱり大先生方なので、なのでやっぱり子育て支援センターだったり、保育園での開催というのがありがたいなと思います。小杉もすごく便利でいいんですけど、混んでいるかな、うちの子供は待てないかなとか、そういう不安もあって、なかなか混んでいるところに行かない習性の家族もいて、なので、去年の様子をせっかく動画であるんであれば、それをＵＲＬで動画で見たり、こういう場なんだというところをもうちょっと周知していただけたらありがたいなと思いました。
　すみません、長くなってしまって。

市長：いや、ありがとうございます。すばらしい。もうアイデアの宝庫みたいな、いい生のお話を聞かせていただきました。
　大村さん、いかがですか。

大村さん：皆さんの言っていたご意見とすごく似ているところもあるかもしれないんですけれども、今回、この集会に参加するに当たって、誰がどんなところでどんな防災イベントをやったほうがいいのかなというのを保育園のママたちにちょっと聞いてみたんですね。そこでやっぱり言っていたのは、大きな駅前とかの大規模な防災イベント、ああいうのもすごく重要なのかもしれないけれども、やっぱり混んでいたりとか、時間の都合が合わないとかで、なかなか参加できないというのもあるので、自分の生活リズムの中で、そういったイベントとか体験ができるのがあったら参加するよねという意見が多かったんですね。
　具体的に言うと、こういった地域子育て支援センターに行ったときとか、あとは、こども文化センターとかに行ったときに、本当にちょっとでもいいので、そこで防災の何か講習とかをやってくれたら参加しやすいよねと。子供と一緒にお母さんも参加しやすいよねとか。あとは、小さい頃だと、グランツリーの赤ちゃん本舗にすごく行ったりとか、いろんなお店に行くと思うので、グランツリーで防災のイベントがやっていたら、買物ついでに参加できるよねというような意見がすごくあったかなと思いました。
　あとは、イベントに参加したら、グランツリーとかだったら、割引券がもらえて防災グッズがちょっと安く買えたりだとか、あとは、こういった支援センターとかだったらば、もしも災害のときに自分の子供が何かけがをしてしまったとか、ないかもしれないですが、心肺蘇生法が必要になったとか、そういったときに、こういったところで、そういったときにどうやって応急処置をしたらいいんだよねとか、子供の心肺蘇生法はどうやってやるんだろうねとか、あとは、ついでに何か詰まっちゃったとか、喉に詰まったときの応急処置みたいな、そういうのもミニでもいいので、やってくれたら参加しやすいよねというような意見がありました。

市長：ありがとうございます。事前に聞いてもいただいてとか、もうすてきです。ありがとうございます。
　中村さん、戻ってこられて突然あれですけど、もしコメントをいただけましたら、聞けていましたか。大丈夫ですか。

中村（亮）さん：大丈夫です。すみません、あんな感じで。
　特に２番目のところは、皆さんの話を聞きながら、いろいろ考えていたところがあって、防災については、多分、自助・共助・公助で７対２対１とかと言われると思うんですけど、やっぱり自助の部分がなかなかみんな準備できないよねというところを、皆さん、体験が大事だよねとか、楽しさから入ろうよという、すごく大事だなと思う反面、市長とか区長の立場でいうと、興味がある人、意識が高い人じゃない人たちをいか

に上げていくかがすごく大事だと思うんですけど、そのときに、意識が高くない人がそこの自助の部分をちゃんと準備できないのは何でかなというと、やっぱりみんな、不安は不安だと思うんですけど、人はやっぱり不安になったときに、それをちゃんと見て対策できる人もいれば、基本多くの人は、やっぱり見たくない。やっぱり否認すると思うんですよね。

特に子育て世代となったときに、じゃあ、震災、被災したときに、自分たちの生活というのが実際にどうなるのかというのを具体的に不安に基づいて予期して、何が準備が必要かなというところまでたどり着けるのは、結構な自我の力がないとなかなか難しい側面があるかなと思っていて、それは、１人あるいは夫婦で向き合うのも結構大変だなと思うんですよね。

医療的なケアが必要とかだったりすると、向き合わざるを得ないので、多分やると思いますし、さっきママ友、パパ友なんていう話もありましたけど、やっぱりそうすると、そういう仲間の存在とかがすごく大事になってくるかなと。そこでいかにネットワークをつくりながらやっていくかが大事だと思うんですけど、そのときに、講習とかをしていても響かないような気がしていて、ママ友、パパ友とかで１０人とかで集まって、それはこういう支援センターなのか、行政主導なのか分からないですけど、実際に起きたらどういうふうになるんだろうねというのをいろいろ出し合ってみるみたいなところから始めないと、講習スタートでやっても、結局、意識が高い人にしか響かないような気もするし、ちょっと意識があって行って、大事だよねといって家に帰る頃には、ねーみたいな、で終わっちゃう気もする。

今日の車座とかを聞いていたら、帰りに、じゃあクリエイトでちょっと用品を買っていこうかなとかと思いますけど、それをみんながみんな、こういうところに出られるわけではないので、そういうしかけをたくさん考えていただけると、意識が高い人じゃない区民、市民全体の防災意識の底上げとか、自助の準備というところができていくのかなというところを思ったところでしたね。

市長：ありがとうございます。そうなんです、意識がそれほど高くないという人たちを、どういうふうに意識を、きっかけというふうなものをつくっていくかというのは、先ほどの。

どうぞ、安西さん。

安西さん：それこそが「伝える」が大事だと思っていて、やっぱり私が子供が小さかったときに体験したその日の様子とか、きっと今のママたちは、みんな与えられる、守られる立場だった学生ぐらいまでのママたちがほとんどを占めているので、東日本大震災のときに親目線で、親であった私、小さい子のママであった私がどういう行動をして、どんな気持ちになって、どれだけ怖かったのかというのをしっかり伝えていって、それを自分が体験しているかのように感じてもらってやっていくことが、じゃあ、これは用意しておかなきゃとか、じゃあ、そのときにどうやってみんな、家族で連絡を取り合おうかとかということにつながっていくんじゃないかなと思っているので、もう伝えることは、このこっち側は、みんな体験したことを伝えていってもらいたいなと思います。

市長：ありがとうございます。

どうぞ。楠本さん。

楠本さん：ありがとうございます。私も自宅保育なんですけど、結構やっぱり、自宅保育か保育園かと、かなり子供を持っている人間からすると、生活パターンとしては違うので、未就学世帯と、今日は一くくりの議論でやったんですけど、実は半数ぐらい自宅保育で、半数ぐらい保育園という中で、結構、全然違うかなという中で、今の安西さん話もそうなんですけど、杉﨑さんの話もそうなんですけど、やっぱり被災を体験した人ほどクリティカルにそれは感じるし、必要性も分かってくれると思うんですね。それを講演会とか、

エピソードとか、今、中村さんからはしかけという話がありましたけど、どうするかというのは、なかなか難しいし、それを悩んでいるから、自治体の人もいっぱいこれだけ人件費を割いてやっているんだと思うんですけど、やっぱり１つは、堀さんもおっしゃったように、防災シミュレーションチックな被災体験みたいなものは、すごくお話だけじゃなくて、水が使えなかったら、電気が使えなかったらというのはすごく効果的だなと思っていて、それは、堀さんは保育園で半日だったんですけど、自宅保育の人間からも、例えば、ちょっとどこまでできるかというのはありますけど、子育てサロンとか支援センターでもそういうしかけができると非常にいいなと思いましたし、ここに書いてあるんですけど、支援センターとか子育てサロンは、結構防災の時間は、年１、年２で取ったりしているんですよね。実は結構あって、ただ、そのときは、つまらなそうだからこのときは行かなくていいかなと、意外と子育て世代目線は思っちゃうんですよ。先生が来て１時間講釈をたれるんでしょうみたいな。手遊びだったら楽しいんだけど、講釈を聞くために子供を連れて、寝かしておくか、今日はみたいになっちゃうんですよね。だから、そういうのももうちょっと被災体験だったりとか、面白おかしいお話だったりとか、非常食を食べてみようとかだったりとか、ちょっと工夫で何かポジティブに転換できると思いますよ、ネガティブは。そういうしかけがあるといいなとすごく思いました。

最後に、ちょっと言いたいことを言わせていただくと、今日来ている皆さんも同じことを思っているんじゃないかなと思うんですけど、子育て環境とか、子育ての支援体制自体に際限のない改善の希望があるじゃないですか、はっきり言うと。そういうものがくすぶっているときに、防災をＰＲされ過ぎると、ちょっといらっとくるんですよ。市と区のＰＲに付き合っている場合じゃないんだ、こっちはという気持ちも生まれてきちゃうんです、防災はすごく大事ですけど。

だから、今日のさっきの中村さんの奥さんのほうのお話にもありましたけど、まずは子育てというのを入り口にしてコミュニティづくり、苦しんでいる人、自宅保育の人も含めて、どうやって人とつながりをつくっていくのか。それが防災にもつながる。コミュニケーションで解決する問題がほとんどだと思うので、防災は。やっぱりそういうきっかけづくりを意識してほしいなと思います。例えば、地域ケア推進課と危機管理課で合同イベントをやるとか、そういうことも考えられると思うので、柔軟にイベントとかを設計していただければなと思いました。すみません、言いたいことを言わせてもらいました。

市長：いえ、ありがとうございました。

さあ、時間がもうほぼなくなってきたんですけど、ちょっとここは言っておきたいなという方がいらっしゃいましたら、いかがでしょうか。

じゃあ、まず森さんからいきましょうか。

森さん：すみません、じゃあ短く。私はつながるというのが大事だなというお話をやっぱり皆さんがされているので、どうしてつながったほうがいいかというと、例えば、自分の周りの災害心理として、同調行動というのがあって、周りの人が、じゃあ、大丈夫だよね、しなくていいよというと、自分もやっちゃうんですよ。だから、そこで自分の周りの人をしっかりと防災意識の高い人たちにするというのには、やっぱりさっき楠本さんがおっしゃったように、聞くだけの会を何回重ねても、自分事にはならないと思ったので、手を動かして味を見てという五感を感じて、あとは対話をして、１つ思ったのが、そこにいらっしゃる方たちは、やっぱり地域の方たちなので、生の声が聞けるんですね。私はちょっと保育園のパートで行っているんだけど、雨が降って水かさが増したときに「どこに避難するの」と聞いたら、そのお友達が「いや、武蔵小杉の駅にみんなで移動するとなっているんだよ」とその保育園はおっしゃっていたので、「それって行政から決まっていないの」といったら、「いや、多分、各自園の決め方で」、それを「じゃあ、言ったほうがいいよ」というと、「そんな私たちに余裕はないよ」と、「パートだし」と。そこに何とかしなさいということ

も言えないので、こういう中の声をやっぱり聞いて、届かないところとか、あとはつながりの中で、中村さんの奥さんみたいに、そこの中の中心人物がたくさんいることで、まちの状況とか、あとはパニックにならないようなまちになるんじゃないかというのを思っているので、やっぱり変な情報を発信したりとか、あと探し回る人とか、車を出しちゃう人とかがいないまちのほうがいいと思っているので、そのことでつながりは必要だという目的、何のためにつながるかといったときに、そのお話をしているので、ここだけお話しさせていただきました。

以上です。

市長：ありがとうございました。

安西さん：すみません、あの頃、計画停電というのがあったんです。なので、私は家で、結構子供が小さかった頃は、我が家で普通に計画停電と称して、暗闇で懐中電灯でご飯を食べるという体験をしたので、ぜひぜひ、子供たちは意外と喜ぶので、暗闇でテレビも消して、今日は電化製品を極力使わないよといって夜を過ごしたりしました。ぜひぜひ。

市長：なるほど、面白いですね。ありがとうございます。自主的な計画停電なんですね。ありがとうございます。よろしいですか。大丈夫ですか。

ありがとうございました。本当に生のそれぞれのお立場からのいいご意見がたくさん出たので、私たちもはっとさせられることがたくさんありました。意外と掲示板を見ていらっしゃるんですねとかというのは、そんなに見ているとは、ちょっと正直、思わなかったですよね。それが結構若い層の方が見るのかといったところに、やや意外性を持ったとか、こういう話は聞いてみないと分からないというのは、何となく思い込みが多いので、みんなそれぞれの立場の思い込みの上にみんな成り立っている部分があるじゃないですか。そこをやっぱり崩していくということをやらないと、つながるものもつながらないということが今日はよく分かったような気がしますし、今日のご意見というのは、確実に次の取組に移していきたいというふうに思っています。

やっぱり未就学児世帯もそうですし、市全域の、区全域のいろんな世代の人たちのことを考えていかなくちゃいけないと。そのアプローチの仕方というのは、多分、１つやったからみんながそうなるということではないので、いろんなチャネルをやっぱり使っていかないと、この人には合うけど、この人には合わない。この時間帯には合うけど、この時間帯には全く合わないというのは人それぞれなので、多様なチャネルをやっぱり生かしていくということがすごく大事なんではないかなということを思わせていただきました。

自主的計画停電も面白かったですけど、我が家の話を言えば、うちは妻が自分の誕生日に合わせて健康診断をするというふうなのをやっているのと、それと、やっぱり防災の備蓄のチェックはしているということを防災の日に合わせてやるというのは、意外とちょっと難しいということなので、自分の誕生日のときにローリングの確認をするというふうに合わせ技でやっているというふうなのを何年か前に聞いていて、ああ、それってやっぱりいいよねと。何かのついでに、必ずこの日にはこれをやるというふうに決めているというふうに言っていたのをちょっと安西さんの話から思い出しました。

本当に今日は貴重な時間をいただきまして、ありがとうございました。

区長から一言コメントをお願いします。

区長：皆様、貴重なご意見をすごくありがとうございました。地域でいろいろな活動をしていらっしゃる方がこれだけいらっしゃる。もちろん、ほかにも多くの方がいらっしゃるんですけれども、そういうことをぜひ未就学児世帯の方に知ってもらいたいなというきっかけで、今回は取り組みました。

防災と構えてしまうと、なかなか大変なんですけど、先ほど楠本さんからもあったとおり、地域子育て支援センターで防災のイベントをすると、人が少ないんですよと私も聞いていました。ただ、この前の会議の中で、毎回の集まりのときに、ちょっとだけ、５分でもいいから話をしてもらうと、少しまた意識が向くかなというアイデアももらっていたところなので、これから皆さんと一緒に、行政も今日はたくさんのご意見をいただいたので、そしゃくしながら取り組んでいきたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

市長：どうも本当にありがとうございました。
じゃあ、事務局に戻します。

＜閉会＞
司会：皆様、長時間にわたりまして意見交換をしていただきまして、ありがとうございます。私どもも、今日いただきました意見、たくさんいただいたものがございますので、まず整理をさせていただきまして、次なる取組に入れさせていただいて、よりよいものをこれから皆様方に提供していければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。
それでは、これをもちまして第７８回車座集会は終了となります。皆様、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。